

多職種連携推進研修部会の第3回研修会が開催されました



2018年2月27日

第3回多職種連携研修会

さる2月27日上越市民プラザ 第2会議室にて第3回多職種連携研修会を開催しました。

参加者は、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、相談員、リハビリ職、管理栄養士、介護支援専門員、介護員、福祉用具専門相談員等27名、部会委員6名、事務局5名の計38名です。

今年度は、「その人らしさ、持ち味、生活力をかかわる皆で共有し、その人が本来持つ力を引き出し、在宅での生活を継続していくために、地域連携連絡票を活用することができる」を目標に、第1回研修会では、実際に地域連携連絡票を作成し、在宅生活を支えていくために大切だと思うこと等について話し合いました。また、第2回研修会では、地域連携連絡票を活用した退院前模擬カンファレンスを行い、本人・家族が安心して退院するために大切だと思うこと等について話し合いました。

○第3回研修会内容

【テーマ】サービス担当者会議について学ぶ

第3回研修会では、地域連携連絡票を用いたサービス担当者会議の目的や意義について理解を深めるために、模擬会議を行い

ました。グループワークでは、地域連携連絡票をどのように活用していくことができるか、全3回を通して学んだこと・感じたことについて話し合い、以下の意見がでました。

～ グループワークから ～

「地域連携連絡票をどのように活用していくことができるか」

・関わる職種で情報を提供し合い作成するものであると良い。

・目標を共有し、みんなで同じ方向を向くことが、良い地域連携連絡票の作成につながるのではないかと。そのためには、本人の希望や目標について、各職種で連携して情報を把握し、共有していくことが必要。

・作成を通して事前情報が整理され、カンファレンスや会議の充実や時間短縮ができるのではないかと。

・それぞれの立場で視点が異なるため、各職種の特性を活かし、新たな視点をもつためにも有効なツールである。

・更新していくことで状態の変化が見えるため、経過の把握に役立ち、活用することでより生活をイメージしやすくなる。

「全3回を通して学んだこと・感じたこと」

・連携して、協力を得ていいのだと心強く感じた。

・在宅と医療の間の円滑な情報共有を行うために、研修会に様々な職種が参加することで少しずつ連携がすすむと思う。

・MC ネット等のツールを知り、活用していくことでより連携が図れるのではないかと。

・地域連携連絡票を多職種で協力し作り上げていくことが、チームワークにつながる。